

1. 略歴

- 1986年3月 東京大学文学部国史学科卒業
1992年3月 東京大学大学院人文科学研究科国史学専攻博士課程修了
(1995年3月 博士(文学)学位取得)
1992年4月 東京大学社会科学研究所助手
1994年4月 東京大学教養学部助教授
1996年1月 ドイツ、ボーフム大学 (Ruhr-Universität Bochum) 客員教授 (～1996年10月)
1996年4月 東京大学大学院総合文化研究科助教授 (大学院重点化による)
1999年10月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授
2007年4月 同准教授
2012年8月 同教授
2012年8月 米国、イェール大学 (Yale University) 客員研究員 (～2013年3月)

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本近代史

b 研究課題

明治期の機械工業が元来の研究課題。新技術の導入が社会をどのように変えて行くのかという問題関心を中心に、史料に即した明治・大正期の再検討を心がけている。

c 概要と自己評価

共同研究や内外のシンポジウム等に参加して、従来より幅広く対象をとらえることができるようになり、産業遺産の研究でも多くの知見を得られたが、手を広げすぎて多忙なため、検討を深め、また体系的に成果を提示することが課題となっている。

d 主要業績

(1) 著書

- 共著、Erich Pauer, Ruselle Meade, 『Technical Knowledge in Early Modern Japan』、Renaissance Books、2020
共著、Jan Schmidt, Katja Schmidtpott, 『The East Asian Dimension of the First World War: Global Entanglements and Japan, China, and Korea, 1914-1919』、Campus Verlag、2020
共著、高田馨里編著、『航空の二〇世紀—航空熱・世界大戦・冷戦』、日本経済評論社、2020.3
共著、Erich Pauer, Regine Matthias (eds.), 『Accessing Technical Education in Modern Japan』、Renaissance Books、2021

(2) 論文

鈴木淳、「富岡製糸場における繭乾燥をめぐる」、『群馬県立世界遺産センター紀要』、第2号、13-24頁、2022.3

(3) 書評

- 高嶋修一、『都市鉄道の技術社会史』、山川出版社、『大原社会問題研究所雑誌』、743・744、73-76頁、2020.10
河本信雄、『田中久重と技術の継承：時計から からくり人形、そして電信機』、思文閣出版、『経営史学』、56巻3号、59-61頁、2021.12

(4) 学会発表

国内、鈴木淳、「趣旨説明および「乾燥施設」、日本産業技術史学会年会シンポジウム「産業技術史から見た富岡製糸場」、群馬県富岡市 富岡製糸場、2021.9.11

3. 主な社会活動

(1) 学会

- 国内、日本産業技術史学会、理事、2009.5～、副会長、2017.5～
国内、政治経済学・経済史学会、編集委員、2009.1～、理事、2017.10～

(2) 行政

省庁、文化庁、文化審議会専門委員、2014.3～